



芸劇リサイタル・シリーズ「VS」Vol.8 亀井聖矢 × イム・ユンチャン

Geigeki Recital series “VS” Vol.8 Kamei Masaya × Yunchan Lim

互いに認め合う二人が、才能をぶつけ、高め合う

圧倒的な人気を集め、世界で認められる亀井聖矢とイム・ユンチャンが「VS」シリーズに登場。亀井が初共演への期待を語ってくれた。

今回、亀井聖矢が「VS」シリーズの共演相手に選んだのは、韓国の俊英イム・ユンチャン。亀井は2001年生まれ、ユンチャンは2004年生まれという若さ。どちらも難曲のものともしない鮮やかな技巧と、豊かな音楽性を持つ。

二人が出会ったのは2022年、アメリカのテキサス州で行われたヴァン・クライバーン国際ピアノコンクールでのこと。セミファイナリストとなった亀井は、優勝したユンチャンの演奏を聴き、現地ですでに「いつか2台ピアノで共演できたら」と口にしてきた。そう思いついた理由について、こう回想する。

「ファイナルでユンチャンが弾くラフマニノフのピアノ協奏曲第3番を聴いたとき、その硬派な音色とテクニックをすばらしいと思ったと同時に、自分とはまったく違うタイプだと感じました。2台ピアノは、音色がぶつかってしまうこ

ともあって簡単ではありません。でも彼の音と僕の音が混ざり、引き立て合えば、いろいろな仕掛けが生まれて、“1+1”が2以上になるのではないかと思ったのです。あと、当時の髪型のせいかテキサスのお客さんからよくユンチャンと間違えて声をかけられていたので、見た目似た二人で共演したらおもしろいかなというのもあって(笑)」

一方のユンチャンも、当時から亀井の才能を絶賛。前回の来日時に話を聞いた際には、「カメイのピアノのテクニックはすごいから、自分もコンサートまでにもっと技術を磨かないと。もしくはカメイがピアノを弾いて、僕は別の楽器をやるとか……」と、おそらく控えめなユンチャンなりの冗談だろうけれど、斬新な提案をするほどだった。

互いに認め合う超絶技巧の持ち主。共演につ

いて亀井は、「技術的に完璧に演奏する以上の、その先を考えていけると信じている」と話す。

「ユンチャンの美学のようなものに近くで触れられるのも楽しみです。彼の深い音楽的解釈に釣り合うよう、僕も細部まで勉強し直しておかないといけません。同世代だからこそ、忌憚ない意見を言い合って、いつも以上に自分の考えを出していけそうです」

今回、それぞれのソロに加えて演奏するのは、ラヴェル、ミヨー、ラフマニノフによる2台ピアノの王道作品。

「名曲は、曲そのものの良さがあるので普通に弾いただけでも魅力的に聞こえるけれど、もっと解像度を高め切った状態の演奏をしたいです。僕たち二人が同じ方向に進んでいったら、蓄積していくエネルギーで今までにないような演奏ができるのではないかと思います」

その言葉から、ステージによせる気合と期待が伝わってくる。当日、“1+1”はいくつまで上昇するのだろうか。

取材・文：高坂はる香(音楽ライター)



2月1日(土) 19:00開演
コンサートホール 詳細はP09へ

出演：亀井聖矢、イム・ユンチャン(ピアノ)
曲目：ラフマニノフ/2台ピアノのための組曲第2番 Op.17
ラヴェル/ラ・ヴァルス ほか



©Yuji Ueno



©Lisa-Marie Mazzucco



芸劇&読響

0才から聴こう!! 4才から聴こう!! 春休みオーケストラコンサート

Geigeki & YNSO, Spring Orchestra Concert for Children

オーケストラは、世界の多様性をのぞく窓

さあ出かけよう! いろいろな国のいくつもの時代を、一度に体験できるオーケストラコンサートへ!

「子どもにはいい音楽を聴かせたい。」親御さんなら誰もがそう思うことでしょう。では「いい音楽」って何でしょうか。定義は人それぞれですが、オススメしたいのはやっぱり、オーケストラの音楽です。ヴァイオリン、チェロ、クラリネット、トランペット、ティンパニ等、さまざまな楽器がおりなす多彩な音色の宇宙。とりわけオーケストラが奏でるクラシック音楽は、時代時代の流行を超えて何百年も愛され続けている、ケタ違いのロングランヒット曲です。他では味わえないオーケストラコンサートのすばらしさは、ひとつのコンサートの中で、何世紀にもまたがる時代と世界各地の文化に根ざした音楽を、いっぺんに体験できることだと思います。オーケストラという窓から、世界の多様性が見えてくることでしょう。

数多いファミリー向けコンサートの中でも、ひととき本格的な輝きを放っているのが、この芸劇&読響「0才から聴こう!! 4才から聴こう!! 春休みオーケストラコンサート」です。年齢ごとにプログラム内容を変え、お子さんの集中力にあわせて午前午後の回を選ぶことができます。オーケストラの演奏をじっくり聴く曲、手遊びやボディパーカッションで演奏に参加する曲、楽器のこを知るコーナー、指揮者のこを知る

るコーナーなど、盛りだくさんなプログラムに「学び」の要素がたくさん入っている贅沢な構成。今年は、リズムに注目です。時を刻むリズム、生命のリズム、ダンスのリズム、仕事のリズム、生活のリズム、闘いのリズム、いくつものシーンから生まれた多様なリズムたち。それらの音楽のルーツは、ドイツ、アメリカ、キューバ、スペイン、ロシア、オーストリア、ハンガリーへと広がります。

そんなオーケストラコンサートの幅広い魅力をナビゲートしてくれるのは、しまじろうと一

緒にうたのおねえさんを務める「まなおねえさん」こと小川真奈さん。明るい笑顔と快活なトークが、ちびっ子たちの目と耳と心をつかんで離しません。そして指揮の太田弦さんは、若くして主要オーケストラから厚い信頼をうける新進気鋭のマエストロです。

「このリズムは何をあらわしているの?」「この音楽はどんな国から来たの?」

春休みのひととき、日本有数のオーケストラ読売日本交響楽団の極上の演奏を聴きながら、ご家族でいろいろな会話を楽しんでみませんか。

取材・文：新井晴子(音楽構成作家)



2023年の様子 ©T.Tairadate

2024年3月20日(水祝)
1回目 11:00開演 (10:00ロビー開場) ※0才から入場可
2回目 14:00開演 (13:15ロビー開場) ※4才から入場可
コンサートホール 詳細はP11へ

台本：佐藤美晴
指揮：太田弦
管弦楽：読売日本交響楽団
ナビゲーター、うた：小川真奈



2才のお子さんのお父さん! 指揮：太田弦 ©ai ueda



オーケストラメンバーと小川真奈 ©T.Tairadate